



区議会資料より抜粋

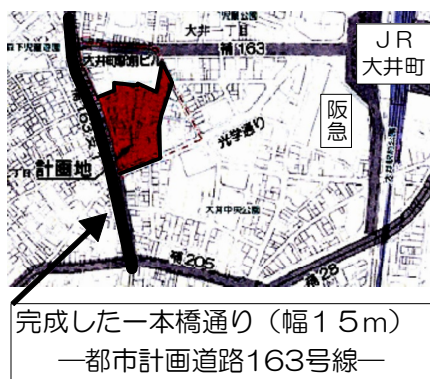


計画名：大井1丁目南第一地区
住宅戸数約600戸 高さ104m

道路完成後、さっそく新たな計画浮上

加速する大型再開発 巨額な税金投入

品川のまちづくりは、これで良いのか



新たな巨大開発が品川区議会に報告されました。計画名は大井1丁目南第一地区再開発事業。場所は完成したばかりの一本橋通りの横。道路整備が新たな巨大開発を誘発しています。こうした再開発事業に、大崎駅周辺だけで715億円もの税金が投入されています。これが区民が望む公共事業(まちづくり)なのでしょうか。

次々と開発

品川区の大型開発が止まりません。従来の大崎駅周辺だけでなく、新たに武蔵小山駅前、西品川1丁目で100m超のタワーマンションが計画化。さらに大井1丁目でも新たな開発が示されました。

新たな開発について、品川区はコンセプトを「都心型居住拠点としてふさわしい、質の高い居住空間と生活支援施設機能の提供」などを掲げます。色々と説明しますが、高さ10

0mと巨大化する理由は何でしょうか。巨大化する謎?

この計画の事業協力者は(株)住友不動産。完成したマンションの内、地権者分を除いた数百戸の部屋(床)を開発組合から全て購入し、販売することができず。

建物が巨大化する背景にはマンションを大きくすると、その分だけゼネコンが儲かる仕組みがあります。開発ビルの高さが、どこも航空法ギリギリとなる理由も、ここにありません。

道路整備と一体

また最近の大型開発は都市計画道路の整備と一体的に進めているのが特徴です。

一般的に「一本橋通り」と呼ばれる道路ですが、計画は「都市計画道路163号線」と名前がつけられています。

同様に「一本橋通りの拡幅工事」は、「都市計画道路の整備」の事です。

最近では、こうした

都市計画道路の整備と合わせた沿道開発が加速しています。

道路沿いに次々と

実際に163号線では当初、大崎駅前だけでしたが、大井町駅西地区（左写真）

は完成まじか、西品

川1丁目（国際自動車教習所跡周辺）は、

いよいよ都市計画決定へ。そして今回の

大井1丁目南地区の発表。さらに品川区

は「沿道の再開発事業

業に向けた地元まちづくり活動を支援」と、もっと進める方針を掲げています。

29・31号線の沿道は

道路整備と一体に進む大型開発が、住宅街を次々とのみ込んでいます。

それでは都市計画道路29号線、31号線

沿道はどうなるのか。住民に計画を知らせず、静かな住宅街を変える計画は大問題です。なかつか亮



二葉1丁目から見上げた完成まじかの大井町駅前西地区再開発事業。税金が補助金として32億円投入されています。ちなみに国からの補助金は約20億円。こうした大型公共事業が、国の財政悪化を招いているのです。大型開発を野放しに進めながら、消費税の増税とは納得できません。

子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌 3ワクチン接種の無料化を

これまで品川区は、3ワクチンの無料化について「任意接種で、定期接種でないから一部自己負担が原則」と説明してきました。こうした中、先日、国の審議会で3ワクチンを定期接種とする方向が発表。これを受け、共産党は改めて、子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌の3ワクチン無料化を提案しました。

品川区は「まだ、国の財源保障が示されていない」と実施を拒否しましたが、既に23区でも多くの区が無料化を独自財源で実施しています。品川区での早期実現を求め、引き続き頑張ります。

次回の『気軽な町の無料法律相談会』のお知らせ

7月13日(金) 午後6時～8時 場所：日本共産党なかつか亮事務所
弁護士と一緒に相談会を行います。生活のこと法律のこと、お気軽にご相談ください
連絡先 昼：区議控室 5742-6818 夜：事務所 3773-3231